

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0592200083		
法人名	有限会社 総合建設		
事業所名	グループホーム いしくら(B棟)		
所在地	秋田県三種町森岳字高田21-7		
自己評価作成日	平成26年10月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成26年11月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事務所を介してつながっている2つのユニットは、入居者、スタッフが気を使う事なく行き来でき交流を図っています。また、スタッフ全員が理念を理解し、利用者が安心した生活が出来るように日々努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開所から2年を迎えようとしているホームは、「和やかに、穏やかにその方らしく幸せに暮らせる家」という理念の実現に向けて日々実践を重ねている。2つのユニットは、台所等を介してゆるやかにつながっており、会話のために、また、歩行訓練のために、行き来している姿が見られる。利用者の家族の多くは遠方にいることから、ホームでの様子を写真付きの便りで伝えたり、ケアプランの作成に際してモニタリング様式に記載してもらった方法で要望を引き出す等、情報の共有に力を入れている。ホームを利用する前に地域で見守り等を担っていた民生児童委員が、利用後外来所し外出に誘い出し付き添う等、馴染みの関係が継続している。清掃に随時取り組み、不快な臭い等がない清潔感のある共有空間は、天井が高く光がふり注ぐ開放的な憩いの場所として機能している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関、ホールに理念を掲示し職員全員が理解している。	開所から間もなく2年を迎えようとしているホームであり、当時職員で話し合い作り上げた理念である。今後は、利用者の状態や職員からの声に耳を傾けながら、柔軟に対応していきたいとのこと。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	散歩などの時は声を掛け合い、また施設内外での交流の場を設けている。	スコップ三味線の演奏ボランティア、中学校や高校の職場体験を受け入れ交流の場を提供している。また、馴染みの理容室では、利用者の体調にあわせて、ホームに来てもらったり店へ行ったりと繋がりが保たれている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議で、地域の方の参加を協力してもらい、そこで、認知症の方への理解を深めてもらえるよう話し合いの場を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	イベントなどでの写真を資料に掲げ、運営推進会議で報告し、また出席者の方々の意見も聞き今後のサービス向上に活かしている。	地域包括支援センターの職員からのヒヤリハットに係るアドバイスや地域住民からの避難訓練に関する指摘について、事業運営の上で大変参考になっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から連絡が取れるよう体制が整っており、分からない点はその都度問い合わせをし指導を頂いている。また、運営推進会議などでイベントの企画を伝え参加の場を設けている。	対応が困難な事例があった時には、地域包括支援センターの職員と連絡・調整を行い、支援のアドバイスをもらう等している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が理解できるよう資料を用意し、いつでも閲覧できるようにしており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	研修に参加した職員がまとめたレポートと資料が、全職員に回覧されている。また、マニュアルが整備され、その内容の周知に取り組んでいる。	外部研修では特に資料等を回覧するだけでなく、職員会議等ですべての職員にその情報が行き渡るよう報告したり、内部研修として取り上げる等、周知方法の工夫に期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修での資料に職員全員が目を通し理解し、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料をいつでも目が通せるような状況にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時には、不安や疑問点を確認し説明している。また、入所後も同様に、いつでも不安や疑問点を聞けるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプラン更新時に、希望や不安を聞いている。また、玄関に意見箱を設置し、いつでも意見が聞けるように体制が整っている。	家族へモニタリングの用紙を送付し要望を記載してもらい、支援のみならず様々な意見を把握できるようになっている。日常生活の様子を「いしくらだより」にて写真付きで家族へ送付し、情報の共有にも努め思いを引き出そうと取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時に法人代理(経理)が参加し職員の運営に関する意見、提案があった場合は反映できるようにしている。	毎月の職員会議で運営等についての話し合いの機会を設けており、職員から出た備品の要望等意見に耳を傾け、理解と実現に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員にあった研修の参加の機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者同士の交流会に参加し、利用者、職員の交流が図れるよう努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の自宅や施設での訪問面談や、本人、ご家族のホームへの見学の間を設け時間をかけて入居の納得、理解を得ている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時に、ご家族が不安に思っている事、不安なことを聞き、より良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	畑での野菜作りや、調理の手伝いなど個々の能力に応じて手伝って頂き、畑での野菜作りなどでは利用者から教えて頂ける場を多く持つよう工夫している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	会話の中にご家族の話題やご本人の日々の様子を伝えている。面会時にはなるべくゆっくりと過ごして頂けるよう居室での会話の場を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の方々や友人、知人の面会時など、ゆっくりと過ごして頂けるように雰囲気作りを心掛けている。	利用者が地域で生活していた時に、見守り等の担当をしていた民生児童委員が、外出の声掛けをし付き添ったり、近隣に住んでいた顔なじみの人が利用者を訪れ近況を話していくことがある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の状況を把握し、レクリエーションや行事を通し利用者同士の関係が円滑になるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後の経過報告があり、家族の方より相談なども受けていた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護記録を参考にしバックグラウンドなど使用し、出来る限り本人の思いや意向の把握に努めている。	暮らしの情報という独自の様式に従い、家族からホーム利用前の様子を各項目毎に記載してもらい把握に努めている。また、ホームでの日常生活の様子について随時書き足すことで、利用者本人の思いをくみ取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談や情報などで職員全員で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録、申し送りなどで現状の心身の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングには職員全員に参加してもらい、利用者一人ひとりについての意見を聞き、介護計画に反映させている。	利用者毎のケアプランを再評価するための様式を用いて、すべての職員から意見や日常の様子を記載してもらい現状把握に取り組んでいる。さらに、利用者本人と家族からの要望を取り入れ、同意を得たプランを全職員で回覧し、周知している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の変化や様子を記録し、ケアカンファレンス時に個々の現状を再確認し実践や計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの訪問や地域行事への参加を増やせるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の診察ができるように支援している。また、相談できるかかりつけ薬局がある。	通い慣れた病院への通院を職員が支援し、治療の変更点等は家族へ報告し共有を図っている。歯科診察については、通院も往診にも対応してもらい、利用者の状態にあわせて使い分けしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在看護職の在籍はないが、協力医とかかりつけ医との密な連絡が出来るように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時には、本人の情報を医療機関に提出し早期退院に向けて定期的に面会し入院中の情報交換や相談も行い退院後の受け入れを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に(契約時)に、ご本人、ご家族に文章にて説明をしている。看取りを希望されるご家族については、ある程度の方向性を決めておき、主治医、ご家族と連携を取りながら、どういう対応がベストか協議していく。	看取りの対応が必要な事例はないが、ホームとして何が出来るのか見極めながら、利用者本人の要望とすり合わせ支援体制を構築する方針である。協力医療機関との話し合いもあわせて、前向きな取り組みに努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し全職員が把握できるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導のもと年2回(日中、夜間想定)の避難訓練を行っている。近隣住民にも協力をお願いをしている。	消防署職員を退職した地域住民がおり、運営推進会議等でアドバイスを受けている。食料等の備蓄や発電機が準備され、その保管場所は職員に周知されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に配慮に心がけている。	利用者の意向に沿いながら、入浴等の同性介助に努めている。また、利用者毎に将棋や裁縫等の趣味活動が継続できるよう取り組んでいる。食事の時間や通常の見守り等支援時には、利用者毎の声掛け対応が見受けられる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いが気兼ねなくできるよう、普段の生活の中でも意思決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が利用者と一緒に食事の準備、後方付けを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	着替えは本人意思を優先している。自己決定が難しい利用者に関しては職員と一緒に考えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が利用者と一緒に食事の準備、後方付けを行っている。	訪問時の昼食がだまご鍋であり、利用者同士和気あいあいとご飯をすり鉢で潰したり、下膳を手伝う姿を見ることができた。利用者毎の嗜好については一覧にまとめ、随時書き足す等している。献立は職員が一週間分作成するが、利用者との会話の中で出てきた要望を取り入れる取り組みも行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量、水分量を記録している。安全に楽しく食事が出来るように調理方法や食事形態も工夫して考え支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日、声掛け、介助にて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートを活用し、排泄パターンを把握し、可能な限りトイレでの排泄ができるよう支援している。	車イスを使用する利用者に対しては、前の排泄時間から見て2時間程度で誘導し、夜間のみポータブルトイレを使用するよう支援している。日中は、トイレへの誘導により排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量、水分量の把握、適度な運動を行っている。また、必要に応じて主治医への相談なども行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者本人の希望に合わせて入浴支援している。また、夕食後、就寝前に入浴希望の方は、その希望に合わせて対応している。	汗のかきやすい夏季や散歩等の後に、利用者から要望があれば、随時シャワー浴にに応じている。浴室隣の脱衣室には、大きめの椅子が備え付けてあり、利用者への気配りが感じられる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	介護記録を活用し、個々の生活パターンを重視した支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	いつでも薬の情報が得られるようにファイルしている。薬の変更時には申し送りをし全職員が理解できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中での楽しみ事や趣味を把握し、軽作業など本人の状態に合わせてお願いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	利用者の希望に合わせて、心身の状態、天候条件などを考慮し、可能な限り散歩や買い物など戸外にて気分転換できる機会を設けている。	ホームの近くには畑があり様子を見に行く利用者がいたり、近所への買い物のため利用者とドライブを兼ねて出掛けたり、通院の帰りには昼食をレストラン等で食べる等、その時々利用者の状況により外気に触れる機会を設けるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金管理はホームで行っているが、外出時、本人の希望があれば職員が見守りし買い物を楽しんでいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望されるときは電話の取次ぎを行っている、手紙は都度対応し、やり取りが出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内でも季節に応じた飾り付けを行っており、また、光、温度、湿度の調整を行い不快にならないよう配慮している。	加湿空気清浄機がホームの所々に設置され、乾燥しやすい室内の改善に努めている。共用空間にはテレビが2台設置されており、それぞれが違う番組を見ている干渉しない程の広さがあり、開放的である。ホーム内の飾り付けは、利用者と職員がおしゃべりしながら作っており、季節感の演出に一役かっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	本人の行動を把握し、座る位置、会話の弾む入居者と楽しく過ごせるよう見守りや支援に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境の変化による混乱を軽減するため基本的に持ち込みは自由に行っている。	ベッドが備え付けられたフローリングのシンプルな居室である。利用者それぞれが、以前自宅で使用していた棚や位牌、遺影等を配置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	目印などを付けるなどして混乱しないよう支援している。		